

まちづくり懇談会議事録

日 時：令和3年11月5日（金）18：30～20：00

場 所：旭台生活環境改善センター

出席者：6人

1. 開会

2. 町長挨拶

※配付資料確認および日程説明

3. 懇談

(1) 第7次総合計画の策定について（別紙1・2参照）

(2) 自由懇談

4. その他（情報提供）

(1) 国民健康保険税・介護保険料・後期高齢者医療保険料の減免について（別紙3参照）

5. 閉会

《懇談内容》

【自由懇談】

町民：8月の末に私たちの会館の和室の南側の窓改修工事の作業に多額の補助金を出していただきありがとうございました。自治会を代表して御礼を言わせていただきます。栗山駅南交流拠点施設の開設・運営についてですが、開設まで2年間かかるようで、金額も結構な金額で、私の感覚で申し訳ないが結構な金額と感じる。建物を再利用されると思うが、それ以外に建物が建ったり、そういったこともされるから2年かかるというような感じなのか。

町長：先ほどの説明の中で少し触れたのですが、駅前周辺の都市再生整備計画事業という大きな計画事業の中の一つで、その全体の都市再生整備計画事業は先日新聞にも出てましたけど15億円かかる。そして、このレンガ倉庫の改修が約3億ということで出ていました。15億のうちほとんどが道路整備である。あの駅周辺の栄町通りもこれから綺麗になり、あとカルチャーの横、松原産業さん行くとこの元町通りもあり、その他9本の道路が相当老朽化して傾いたり、亀裂入ったりしていて、この都市再生整備計画というものに補助事業にのることによって、9億円ぐらいかかりましたが、普通の補助事業でやるとやはり20年か30年かかる。少しずつやっていくから都市再生整備にのったので、5年でそれができたということで、9億かかりました。その他、レンガは3億ぐらいなんですけど、そこで一番大きくかかったのは耐震工事。やはりレンガが崩れてきたら大変なので7,000～8,000万ぐらい使って、その他に内部の建物の工事をやるということで今年は耐震工事。来年が中の先ほど言ったDIY工房をやる部屋だとかFMをやる場所である。このような整備があって計画的に2年かかっている。皆さんもお感じになっていると思うが、栗山駅

前通りは本当に人が歩いていないというような状況。なんとか少しでも賑わいを作っていこうということで、この拠点施設に集客した方々を駅前通商店街の方にも流れていただくような、そういう効果が現れる仕組みにしようとしている。今みんなで完成後のいろんな事業について考えてやっている。特に DIY 工房などはいろんなプログラムを担当になる方が練っており、やはり小中学生向けのいろんな体験工作とか、あとは大人も含めていろんな方がその工作機械に触れていただく機会などのものづくり。触れるというか、携わるような機会を作っていく。栗山にはものづくりに関わる人が多くいる。ご存知なのは匠祭りとかやる方もいらっしゃいますので、そういう連携を取ったり、まちなかレストランってその中で食事ができるような、そういうところも作り、他はコミュニティ FM、ここを情報発信の拠点にして、今の計画では全世帯に小型のラジオを配布する計画をしている。そして災害時には自動的に起動する。スイッチオフになっていても栗山の災害情報などを全ての皆さんに流せるような、そういう仕組みを作るということと、災害は毎日あるわけではないので平時は町のいろんな情報、それをラジオ電波を通じて町民の皆さんにお知らせしていければなど考えている。今言った全体で 15 億かかるが、これも国の補助が 15 億のうち 6 億、40% 入る。残り 9 億についても、国からの借入金で全額対応する。有利な借入金なので実質的な町の負担というと 3 億程度。それを 20 年で償還して 3 億ぐらいの投資で 15 億ぐらいの事業を組み立ててるといってなんとか少しでも賑わいを作ってくように町の方も努力したいなということで考えている。

町民：レンガ倉庫ですけど、金額的に 3 億はちょっとすごいなと思った。それこそ、築かなり経ってるところで、それをあえて耐震補強したというこだわりというか、その良い悪いを私は言ってるわけではないが、壊すことも可能だったのかな。

町長：確かに壊してまた新しく作るということも考えたが、こういうたたずまいというか、倉庫というのは、あまりありませんので、なんとか風情というか倉庫の景観を生かして、駅にマッチさせていくようなイメージの中で、このレンガを使っていこう、外観を活かしていこうということになった。言われたとおり、何千万もかけて耐震までしてというところはありますが。

町民：例えば、有利な借入金を使うには、いろいろ残したりしなきゃいけないのかなど。各々皆さんがどうすればいいのか。落としどころを私は全然否定する気は全くないんですけど、プロセスというか、知りたかった。

町長：全体の都市再生整備計画事業の中で採択を受けるためにはメインの事業が必要になる。ですから、それが改修であっても多分該当するし今回のような今言われるように新しく施設を作るのも該当したかと思います。

町民：道路だけでは駄目だよってことですね。分かりました。

町民：素朴な疑問であるが、公共交通機関がかなり不便だなというのを日ごろ感じておられて。室蘭本線が、利用者が少ない中、廃線の候補に毎回挙がっているような報道を見かける。今後どうなっていくのか心配をしている。公共交通機関の整備という議論になると、町内で動きやすいと、循環バス等々取り組みやすい形で、取り組んでおられると思う。町外との行き来、例えば札幌行く、岩見沢行くとか、室蘭本線なくなったら不便。千歳空港から近いよ、みたいな PR をすごくするが、実際には公共交通機関で千歳に行こうとすると、何度も乗り継いで車で行くより何倍時間をかけるんだっていうような状況もあって、なかなかこう人呼んでくるのも厳しいような印象を持っている。たまたまこの間、道路

を見てると新千歳空港から旭川に行くバスが1日4往復とか5往復とか、まさに栗山を通ってるので、あれを止めてもらえたら千歳まで近いなど、いろいろ考えながら見ている。漠然としますけど室蘭本線なくなりそうな気配を感じるのだが。

まちづくり総括:室蘭本線ですが、おっしゃる通りJRが単独で維持できない路線と公表し、それ以降、沿線の2市3町、岩見沢、栗山、由仁、安平、苫小牧で沿線協議会を作りまして、今路線維持に向けた活動に行ってきた。それで国の方からも、もう少し地域も一緒になって維持する取り組みをしなければ駄目だということで、今JRさんと一緒になってアクションプランをJRさんと私たちが共同で作って、なんとか利用促進につなげる取り組みをということで今やっている。その活動をやる前提で、国の方も財政支援を行っており、ちょうど令和元年、2年が一期目の取り組み期間で、今、3年、4年、5年と二期目の取り組み期間に入り、とりあえず今、JRさんと沿線が一緒になって、なんとかこの3年間少しでも利用促進というかマイルール意識ではないが、そういった気運を高める取り組みをしながら、国の支援も継続していただけるように、今鋭意取り組んでいる。それとバスの関係、おっしゃられました通り、旭川と新千歳空港間、バス路線が走っており、ちょうど国道234号を走っている。今後の可能性も含めて協議をさせていただくことと考えている。

町長:私の方からもお話すると、先ほど言われたように栗山町内の循環のバスについては今9路線、20何本が走っている。かなりこの規模の町としては循環バスはコミュニティバスも含めて走っている。年間で8,000万から9,000万ぐらいの一般の持ち出しはあるが、やはり滝下だとか南部の方とかの高齢者の方からの一番要望が多いのがその足の確保ってところである。ですからそこはやはり財政が厳しくなったとしても、町としては続けていかなければならないかなというふうに考えている。それと、後はその町外との連携というかバスも結構、栗山は基点に走ってる。便数は少し少なくなってきているが、岩見沢から栗山まで往復しているバス路線が1つで岩見沢から栗山経由で長沼まで行こうとしているのが1つある。それと岩見沢から栗山から由仁・三川というのが1つになっている。この3路線が走ってるということもある。それと並行して室蘭本線も走っている。だからこんな恵まれたところはないと思う。あの他の沿線とかだったらそのJRしか走ってないとかJRが廃止されるからバスに転換するとかとなっている。ここの場所は鉄道も走ってる、バスも走ってるということなので先ほどからちょっと心配されておりますそういう問題もないかなというふうに思っており、便数はあまりないが、札幌を高速で往復するバスも走っているの、望めばきりが無いがそういう状況である。ただ、千歳の発着、そこへのアクセスがなかなか難しいというところはあるが、そんな中でこの間新聞に出ていた町で234号線の四車線化整備促進に向けた期成会が立ち上がったということで記事になった。実はあの町の方も平成10年、23年ぐらい前から要望しているが、なかなかその国の予算の関係が整備がされないということで、この度その町の有志の方が立ち上がってくれて行政だけじゃ大変だろうと町挙げて要請していこうということの機運が高まって四車線化、そういう期成会ができた。ただ、ちょっと過去の苦い歴史があって、平成8年には、バイパスの四車線化と旭台の工業団地から由仁の古川まで抜けるバイパス、ショートカットするバイパスも2本立てで要望している。そのショートカットするバイパスの整理が本決まりになっていたが札幌開発建設部との間でその時、いろいろ地元で揉めてしまって、角田を通してくれという話が出てしまった。そうやって出るともう国は一

切動かないですから、それっきりになった。バイパスの関係は今回仕切り直して一緒にやっとうということになった。そんな中でこれまでのその要望活動が実った。四車線からいきなり改築する予算がなかなかつかない。それで我々と開発局で釣り合わせているその整理手法として、岩見沢の方から来ると駅に曲がるとこの交差点だとか後は栗山公園から天満宮さんに曲がるとこだとか、あと大鵬のところで曲がるとこだとか、後は日赤病院から駅の方に曲がるところ、7箇所ほど危険交差点というのがある。右折レーンがないなどは交通安全対策という国の予算でやれて、それは予算つきやすい。それは開発局のアドバイスでまずその7つの危険交差点を拡幅して、それを終わった段階で一気に四車線にしようというようなアドバイスをいただいている、やっとう今年の開発予算に一つ目の駅の方に上がってくるとこの交差点、あそこ右折レーンはあるが短い。あそこの拡幅改良工事に向けた調査設計費がついた。ということでもう来年以降あの工事に入ってくる。そして先日開発局の方からは、次どこの交差点がいいかというような話が来ているので、ちょっと時間かかるが進められるような状況になった。地元の期成会ができ、後押しもあるので少しスピード感持っていけるかなと思う。そして四車線化は、当然企業誘致というか工業団地の企業の張り付きも当然活発化するし、道路がきちんと整備されると活発化するので、後は農業者の皆さんが農産物の販路というか交通網もできてくると言うこともある。また、今角田小学校の前に大型車両がどんどん通っている。交通安全上のそういうものも解消になっていくということもある。いろんな効果が、234の分車線拡幅とバイパスにある。10キロぐらいしかないのでもそんなに交通事故がないかなと思ってるかもしれないが、物損が年間で30件ぐらいある。そして3年間で人身が10件そのうち死亡が2件、本当に危険な国道である。そんな交通安全対策もあるので、そこをきちんとやっとうということが一つ。今回そのお話をしたのは今この空知総合開発期成会という要望団体があるが、町も入っている旭川空港から千歳空港まで、あの広域な重要幹線道路と位置づけしてるんですよ。それでその1区間に234がある。ですからこれから今旭川から12号まで旭川空港から12号線に出る452号線っていうのが盤の沢道路ってあるが、そこが今整備してる。そこから12号に降りてきて12号も美唄の峰延と光珠内で今四車線化の工事が進んでる。12号降りてそしてこの234に入って、ここがきちっと四車線化されてバイパスができて、そして337にぶつかって千歳空港に入ると、この旭川空港から千歳空港までのこの縦の重要幹線がこの空知管内期成会としても取り上げてるのでこういう整備も含めてそういうものができればさっき言った高速バスの乗り降りするところだとか、四車線化ができればできますんでね、そんなこともまだこれから20年30年かかる事業かもしれませんがそこは、僕らもだいたい引き継いでやっとうしていければいいかな。少しずつ、公共交通が良くなればいいかなと。

町民：栗山ロッキーズで、現在栗山小学校のグラウンドで練習させていただいているが、ベースが非常にボロボロになっている。これは数年前からも関係者にはお伝えしているが、私がまだ携わる前からの話らしく、一度見に来ていただいて以降何もない状態である。ことあるたびに、その感じがあって、回答待ちというのがずっとここ何年か続いている。お金を出して下さいとかではなくて、ただグラウンドを借りている身なので勝手に替えることもできないので。例えるなら小学校の持ち物でお借りしてるような認識であるが、担当だった方が社会教育だったか、当時の話はうろ覚えだが、実は小さい子どもが怪我することがある。

教育長：基本的には今小学校の教育課程に野球やソフトボールはないので、昔であればソフトボールというのが競技課程の中にあり、カリキュラムを組んでいた。ですのでそこは過去の部分になってしまっている。例えばあのグラウンドの土、一般的な考えで栗山はどうか別として、あの土を入れることも学校の授業で使うから土を入れるという形である。

町民：我々父母会でその買うことは可能というか、お金を出し合うことは可能である。ただ、子どもが怪我するのが1番嫌なのです。

教育長：今野球に関わっては学校教育とは離れて社会教育である。そういうものについては後援会で基本的には用意しているという形になる。ただ、栗山が歴史的にどう整理してきたかということは、私は分からないので今喋ってますが、どこに行ってもそういう形を取っています。学校を経由して何かを出すということは岩見沢も美唄も深川もしていませんでした。

町長：これは少し検討させていただきたい。そういうものってどうやって整理しているかの確認をして、また、学校通すと大変。少年団活動ですので、社会教育の予算でできないのか、少し持ち帰って行きたいと思う。

町民：ロッキーズとしてもお借りしているイメージ。グラウンドをお借りして使わせていただいているので勝手に替えたって言われてもいやなので、当然お話・報告はしなきゃいけないが、若干その縦割り感を強く感じる。今現在、小学校は学校教育でロッキーズは少年団で社会教育だって、すごい壁というか。

教育長：今、働き方改革があり、小学校も中学校も指導者関係は社会教育に移行していく大きな流れがある。ただ、なかなかそこに移行するのに成熟してない地域がたくさんあるので、基本的には学校教育から部活動をなくしていくというのは国策です。そこに向けて受け皿をどうしていくのかというのが非常に課題になっている。

町民：ちょっと僕よくわからないけどね、グラウンドを整備しているのは誰がやったのかとか、調べなきゃダメじゃない？

教育長：だから今も小屋ありますよね。あれは僕が監督時代に父母の人が作ってくれと。それは校長先生に、ここに作って設置するからって許可をもらってやった。なんかどこまでが町が、きちんとあの整備をして、そしてこれはそれぞれの団体がやるとか、そんなのはっきりしてないっていうところもあるのかもしれない。ただちょっとせっかく来てご意見いただいたんで、社会教育の方にどういうふうに進まは整備しているのか、どこまで町がやってんのかその辺の確認をさせてもらう。

町民：お金を出してくださいとかではなくて、やっていいよと許可していただければ分かりましたというところで。ただ勝手に替えてって言われてもあれなので。

教育長：勝手に替えてはないですね。あれは一応土地の部分があるので相談しに来てくれましたけどね。

町民：先ほどおっしゃられたようにその学校教育から部活動を一個捨てるのはもう重々承知で、だからこそ今ボランティアで、手弁当でやっているのです、すごく私にとっては重要というか、そこは大事にしてあげたいと思う。

町長：調べさせていただきます。いろいろあると思うので、サッカーボールでしたらもう少年団で用意するのかという話になります。同じですよ、ベースだって。だからそんなのを父母の方に用意してくれなんてお話にはならないと思います。

町民：きっちり全部決めるとまた辛い時もあるから、なあなあ良さもあるんですけど、

そこはきちんと報告して許可を得るといふか、報連相ができていればいいなと思う。ただ、他のチームの子がもし怪我したらどう責任取るんだっていう話になる。保険かかっているから大丈夫とは言えない。だけど勝手に替えるのは駄目だ。

20 : 00 閉会